

研修プログラムは日本サイコoncロジー学会作成「ピアサポーター養成研修会開催マニュアル」から抜粋

	研修プログラム	学習目標
①	ピア・サポートとは	・ピアサポーターの活動内容、形態の多様性を理解する。
②	ピアサポーターの活動方針 (ピアサポートを行うこと、守るべきこと、活動を振り返り、報告)	・ピアサポーターの活動内容、形態の多様性を理解する。 ・守秘義務や、医療行為そのものに介入しないことなど、医療機関でピアサポートを行う際に注意すべき点を理解する。 ・活動の記録やピアレビュー(活動の振り返り)の目的・意義、行い方を理解する。
③	相手を大切にすること、自分を大切にすること (バウンダリーについて、ピアサポーターが知っておくと良い情報)	・バウンダリーについて理解する。 ・ピアサポーターが知っておくとよい情報を理解する。
④	自分の体験の語り方	・自分の体験を言葉として振り返り、必要があれば感情的な問題に気付く。 ・体験を整理しておくことの大切さを学ぶ。 ・体験の多様性に気付く。 ・一定の時間内に体験をかたる経験をする。 ・仲間の体験を知る。
⑤	がん診療の基礎知識と情報提供の注意点	・ピアサポート活動に際し、最低限知っておくべきがん医療情報(「がん発生のメカニズム(遺伝子異常)」「がんの疫学」「がん細胞の性質」「がん治療の3本柱」等)や、学習に利用できる教育資料(「適切な情報源」「情報の見極め方」等)を理解する。
⑥	コミュニケーションの方法	・ピアサポーターが身に付けておくべき基本的コミュニケーションスキル(傾聴の方法等)を理解する。
⑦	【ロールプレイングによる演習】	・ピアサポーターの役割、活動指針、コミュニケーションの基礎など研修で学んだ事を踏まえて実際に相談対応を経験する。 ・ピアサポーターと利用者という意識を持つことで、傾聴や寄り添うことの難しさも含めた気づきが得られる。 ・サポーター、利用者、観察者それぞれの役割での気づきを言葉にし、振り返りの意義を感じることができる。
⑧	グループファシリテートの方法	・がんサロン等の運営法である、ピアサポーター養成テキスト「Vピアサポートの活動と実践 グループでのピアサポート活動」と、「VI がんサロンで起こり得る事例と対応のヒント」の内容を理解する。
⑨	行政や医療機関の役割	・それぞれの地域で、ピアサポートが普及し活動するために、行政と医療機関の役割を理解し、ピアサポートが実践できるようになる ・がんのサバイバーシップとピアサポートを理解する ・国と地域の施策を理解する(がん対策推進基本計画・都道府県がん対策推進計画) ・医療機関が出来る事を理解する ・行政が出来る事を理解する ・地域でピアサポートを実践するための課題をあげ、実践を考える